

ツカミ結 桑箱に用ゆ、ツボ羽十五枚なり、

〔長闇堂記〕一一手野雁と云鳥の羽箒世にはやりし、其始は遠州殿政○小堀備中下國の時、野雁を打給ひて、其羽を箒につかひ給ひしより起れり、

〔茶之湯六宗匠傳記五〕小堀遠江守宗甫公自筆の寫

一羽箒は、羽の間五寸壹歩、柄三寸壹分、羽と柄の間壹分、此寸法を用ゆ、然ども羽に依て長みじか有、取合惡敷故也、さは謂ど棚に寸法極故、圖の無き事は難成、其中間了簡有べし、

〔茶道要錄上法〕座席之段々同床之事

一羽帚之事、三羽一羽アリ、三羽ハ三枚ヲ重テ、柄ノ所ヲ箒ニテ包ミ、二所ヲ結也、本ノ方ヲバ箒ヲ折返ユヒ、其緒ヲ伸テ輪ニシテ掛ルヤウニモ、又別ニ輪ヲシテ、其折返ノ間ヘモ入ル、利休ハ即箒ニテ結、元伯ハ紙捻ニテ結、コノ時ハ綺ナリノ上ニ粘ヲ引也、後ニ毛立故ナリ、柄ノ包ヤウ末流ノ異アリ、羽ハ鶴ノ本白ト、鳩カ用、此外堅ク不用、一羽ト云ハ、鶴ノツボ羽ト云ヲ一枚、桑ノ柄ヲ入テ用、柄ノ削ヤウ形有、廬地ノ腰掛ニ置帚ハ、鳩カ鶴ノ羽ヲ翅ノ節ヲ付テ切テ、箒二枚ヲ以テ、青麻繩ニテ結也、箒ヲ捻テモ結ナリ、

炮烙

〔茶道早合點下〕下取土鍋

下に火灰を、くつかへたる時、此ほうろくへ取入、爐中をならず、又底取土鍋ともいふ、

〔茶道筌蹄三〕炮烙之部

甕蓋 南蠻のツボの蓋なり 島物 備前、信樂、樂素燒 利休形なり 同藥懸り 利

休形、風呂に用ゆ、 同燒拔 如心齋好、長入より前になし、 同ノンカウ形 素燒に押判あ

り 同内藥 啐啄齋好、爐に用ゆ、 金入 了々齋好、善五郎作、黒に金入、爐に用ゆ、

半田之事